

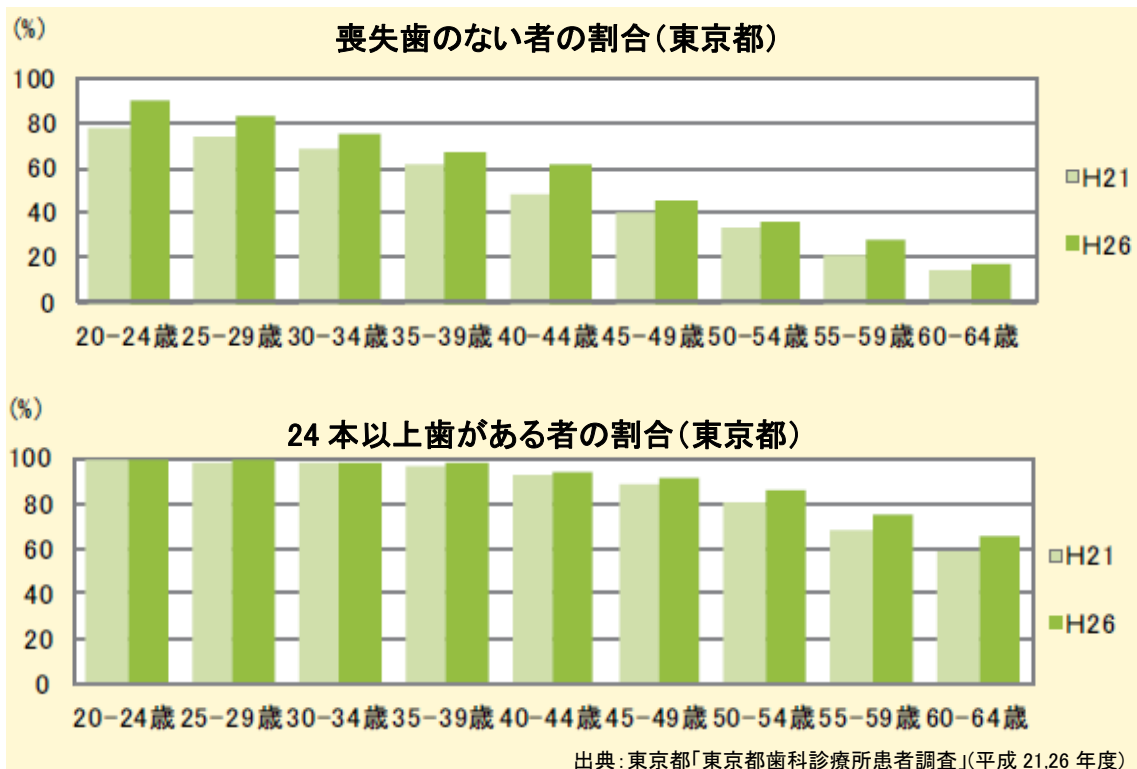
データで見る、成人期のお口の実態



歯を失ったことがない人が少しずつ増えています

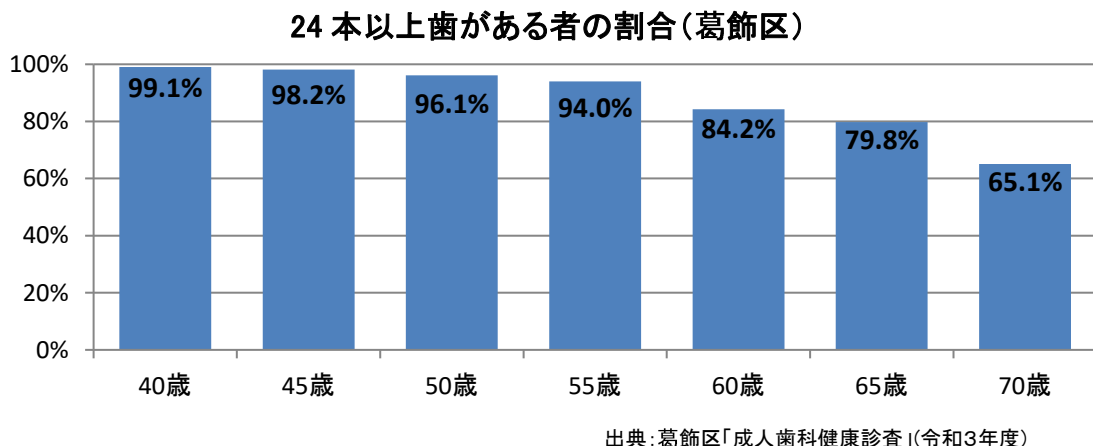
喪失歯(むし歯や歯周病または外傷により失う歯)のない人の割合が増加傾向にあります。永久歯は全部で28本、親知らずを含めると最大32本ですが、すべて自分の歯で生活を送ることは心身健康でいられる近道です。

また自分の歯が24本以上ある人も各年代で増加しています。“80歳になっても自分の歯を20本以上保とう”という「8020運動」は生涯にわたり自分の歯で食べ物をかむことを意味しています。この達成に向けて成人期から取り組むことが大切です。



葛飾区の現状

令和3年度に実施した葛飾区成人歯科健康診査の結果によると、70歳の6割以上が24本以上歯があるということが分かります。

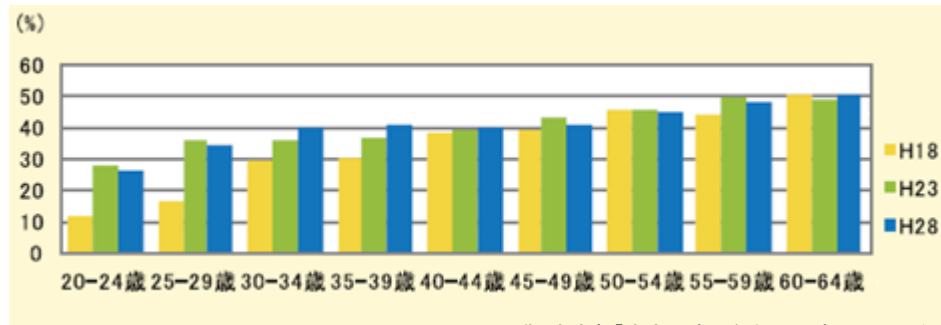




歯が増えたことによる歯周病の現状

自分の歯を所有する割合が増えた一方で、歯があるからこそ治療を必要とする進行した歯周病にかかる人が増えているという現状があります。20代の若い世代の歯周病の割合が最近急に増えており、成人期はむし歯予防に加え歯周病予防にも目を向けることが大切です。

歯周ポケット4mm以上(進行した歯周病)の割合(東京都)

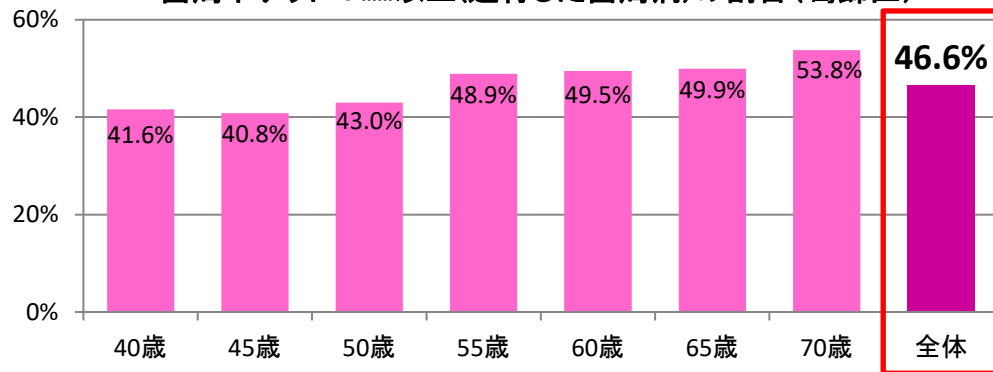


出典:東京都「東京の歯科保健」(平成18,23,28年度)

葛飾区の現状

令和3年度に実施した葛飾区成人歯科健康診査の結果による進行した歯周病の割合は以下のとおりです。健診を受けた区民の半数近くが進行した歯周病になっています。

歯周ポケット4mm以上(進行した歯周病)の割合(葛飾区)



出典:葛飾区「成人歯科健康診査」(令和3年度)



歯医者との関わり方

すべての年代の7割から9割はかかりつけ歯科医をもっており、年齢が上がるにつれその割合は高くなっています。

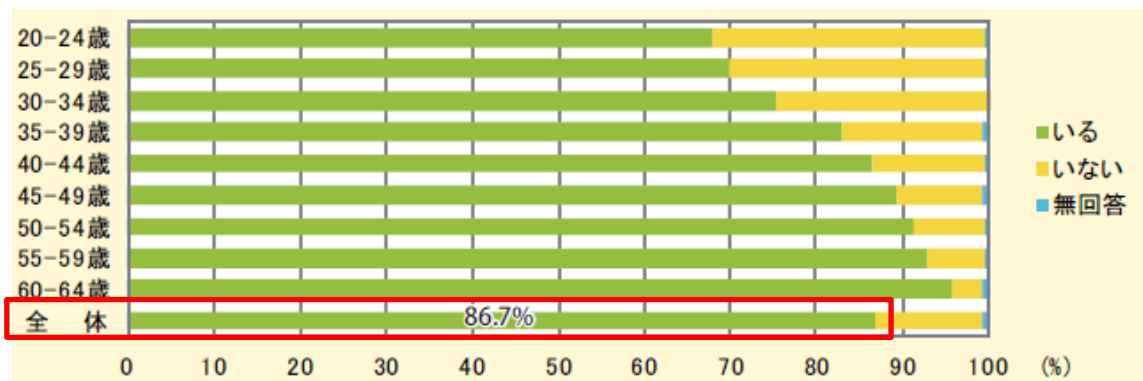
しかしながら、かかりつけ歯科医で定期的に健診や歯石除去を受けている者の割合は、全体で見ると約6割程度に留まっています。

歯周病をはじめとするお口の様々な病気の予防には、毎日のセルフケアと歯肉などの粘膜のセルフチェックが欠かせません。それに加えて、かかりつけ歯科医を定期的に受診することが必要です。

かかりつけ歯科医とは治療以外に健診を含めてお口のことをいつでも相談できる決まった歯医者のことを意味します。

かかりつけ歯科医の機能を正しく理解し、自ら口腔ケアに取り組むとともに、定期的に健診や歯石除去などの予防処置を受け、生涯を通じて楽しく食べられるお口の環境をつくりましょう。

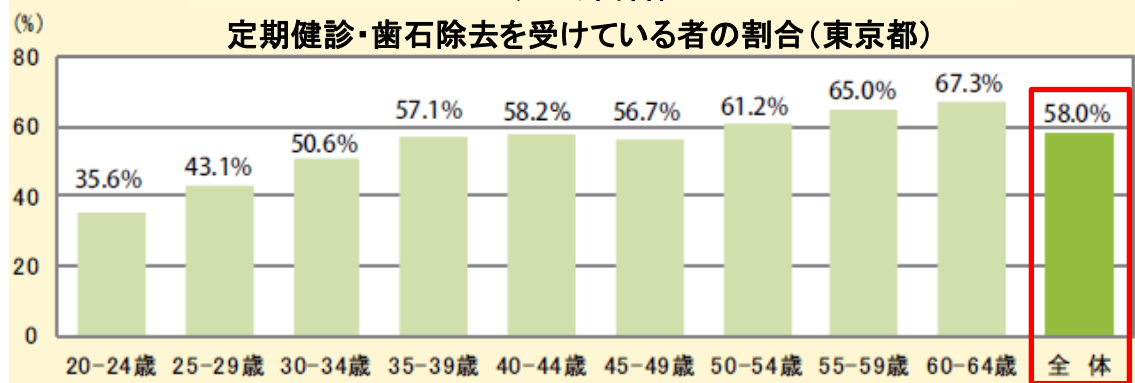
かかりつけ歯科医をもっている者の割合(東京都)



出典:東京都「東京都歯科診療所患者調査」(平成26年度)

かかりつけ歯科医で

定期健診・歯石除去を受けている者の割合(東京都)



出典:東京都「東京都歯科診療所患者調査」(平成26年度)